



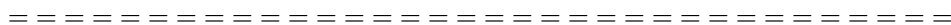
地域日本語支援ニュース こだま 第 375 号

2020.2.13



★—メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます—★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。



■日本で育つ■

アウン ゾウ テェ ピエさんは、8歳の時にミャンマーから来日し、双子の兄とともに都内の小学校、中学校、高校での学校生活を送りました。昨年（こだま 371 号）のお兄さんに続き、今号では弟のピエさんの登場です。転んだりぶつかったりしながら、今、前を向いて歩いているピエさんの軌跡です。

.....

ある双子の兄弟の軌跡（その 2）

前を向いて 一歩 一歩

アウン ゾウ テェ ピエ （ミャンマー）

◆ワクワクして来日した 15 年前

私は、1997 年 11 月 2 日にミャンマーのヤンゴンで三人兄弟の末っ子として生まれました。私が生まれた時、父は日本にいましたが、私は父の存在も知りませんでした。小学校に入る頃になって初めて、母が父の写真を見せてくれました。そして、日本にいても教えてくれました。その時母が見せてくれた父の写真は、若くて、イケメンでした。私は、母に聞きました。「どうしたらイケメンパパに会えるの？」

そして、私が生まれて 8 年経った春、遂に私は、日本に行くことになりま

した。父は、日本でビザを取得し、私達家族を日本に呼んでくれたのです。初めての日本、初めて会う父。私はワクワクして、日本にやってきました。

◆もう帰りたい

ところが、実際に日本で生活してみると、色々な問題に直面しました。一つは、気候です。ミャンマーは、寒くないです。年中暖かいのです。私が日本にきたのは4月でしたが、日本はとても寒く感じました。もう一つは、日本語です。いちばん苦労したのは、学校から配られる手紙でした。記入して提出しなければならない手紙があっても、わかりませんでした。また、授業参観などで、お弁当を持ってこないといけないのに、それがわからずに持っていかなかったこともありました。

私は正直なところ、もう帰りたいと思っていました。それは、日本語がわからないということもあるのですが、もう一つ、そのためにクラスの女子に相手にされなかったり、差別をされたりしたことが大きな理由でした。席替えでは、私の隣に当たった女子はすごく嫌な顔をしたり、席を離したりしました。給食の時間に私が当番だと、具合悪そうにして給食を残し、ピエのせいでお腹が空いているんだよと言われました。それでも徐々に日本語も覚えて、中学2年生の頃にはいじめがなくなり、男友達に囲まれる生活を送るようになりました。

◆高校では単位を取るのに四苦八苦

その後順調に中学校を卒業し、推薦で高校に入学しました。定時制高校なので4年間毎日通うのが大変でしたが、先生方もフレンドリーで授業もゆっくりと進めるので、小中学校に比べれば点数がとれるようになりました。ただ、良いことばかりではありません。高校では、教科の単位が取れないと進級ができません。私は英語と物理でいつも1を取り、毎年大量の課題をやらされました。結局4年間、補習なしで進級したことは一度もありませんでした。4年生になり進路活動をすることになり、他の人は、自分が行きたい会社や学校に面接に行ったり履歴書を書いたりして、早い人だと2学期の時点で進路が内定していました。ところが私は単位が足りないため、行きたい会社を調べる以外は何もできませんでした。私が友達に相談すると「そうなんだ。」とか「お前には無理だよ。」とか言われました。「本気度が伝わってこない。」とも言われました。卒業まであと残り2週間なのに課題が終わらなくて、夜も眠れませんでした。

◆俺の人生終り？

それでも、なんとか課題が間に合い、卒業が決まりました。結局、進路活動はしないで高校を卒業しました。高校卒業後は、自分で携帯電話の会社に面接に行きましたが落ちました。これまでやっていたバイトもやめまし、新しい会社にも受からない、高校も卒業したし、俺の人生終わりだ、と思っていましたが、いちばん上の兄に勧められてコンビニ店で働きはじめました。でも、努力しても認められず、色んな店に移動させられて、最後の店のマネージャーと喧嘩してやめました。「俺は人に必要とされていないのか？」と思い毎日落ち込んでいました。そこで、私は、ミャンマーにいる大好きな叔母に相談をしました。「叔母さん、どうして人は、私の頑張りを認めないし、私は相手にされないの？」叔母は「そんなことないよ。いつかピエの頑張りを認めてくれる人が現れるよ」と言ってくれました。

◆叔母の死で目が覚める

それでも、しばらく私はダラダラと過ごしていました。すると兄の奥さんが「毎日ダラダラと過ごしてるより、別の店で働きなよ。」と言いました。私は、どうせ今回も不採用だろうなと思いながら、別の店の面接を受けました。そのことを、励ましてくれた叔母に連絡しようと思っていました。ところが、その日に、叔母は突然亡くなったのです。ショックと同時に、ふざけるなよ、せっかく俺が今日報告しようとしたのに、何で聞かずに死ぬんだよ、と思いました。ミャンマーから送られてきた写真には、まるで安心したかのように眠る叔母さんが写っていました。

その後、私は新しい店に採用されて、「誰からも認められなくなたっていいし」と思いながら、目の前にある仕事をコツコツとやり、人がやらない掃除や声かけなども自分から進んでやりました。そうしたら、だんだん人から認められるようになりました。その結果、なんと努力賞を受賞することができました。

◆幸せは前にある

こんな私は、今色んな場所で色んな方法で私の人生の経験や乗り越えた方法をみんなに発信しています。今この記事を読んでいる方、人生、生きていれば、挫折することも壁にぶつかることもあります。そうなった時は、一度立ち止まって、よく自分を振り返る時間を作ってください。また、上手くいかないか

らと言って悲観せずに、自分の事を考え直す為に神様が時間を与えてくれたと
思ってください。もし私が高校を卒業する時に進路が決まっていたら、今の店
に入ることもなかったし、人からも認められずにいただろう。あの時に進路が
決まらなかったのは、この素晴らしい店に入るためだったんだと最近になって
気づきました。辛いことや悲しいことがあったら、自分と同じように母国を離
れて、日本という同じ空の下で頑張っている仲間がいることを思い浮かべなが
ら、前を向いて欲しいと思います。幸せは、前にあります。後ろを振り向かず、
前を向いて、一步一步幸せに近づいて行って欲しいです。
